

とうきょうすくわくプログラム活動報告書

園名 : 南つくし野保育園

クラス : 3~5歳児クラス オリオングループ

年間テーマ: お寿司の興味から魚の生態へ

1、活動のテーマ

〈テーマ〉

釣りを通して魚と触れ合う。

〈テーマ設定の理由〉

魚を観察したり触れ合う中で、感じたことや気づきを伝え合い、興味を深めていく。

2、活動スケジュール

11月~

- 釣り堀王国について調べる。
- バスでの約束、座席を決め、魚に関係したクイズなどレクレーションを考える。

12月~1月

- 12月11日→釣り堀王国に行く。(釣り体験、釣った魚をその場で調理してもらい喫食)
- 見た生き物を思い出しながら制作し、釣り堀を作る。
- 魚について調べ、クイズを考える。
- お楽しみ会で保護者と一緒に釣り&生き物クイズを楽しむ。

3、活動のために準備した素材や道具、環境設定

- 釣り堀王国のパンフレットを保育室に掲示。
- 釣りたい魚を調べられるよう、図鑑を本棚に設置。
- 遠足後、保育室にも釣り堀を作れるよう材料を用意。

4、探究活動の実施

〈活動の内容〉

- 魚への興味から、自分たちで釣ってみたいという意見があり、釣り堀王国への遠足を実施。
- 事前にどんな魚がいるのかを調べることで、当日までの期待が高まっていた。
- 自分の力で様々な生き物を釣ったり、泳ぐ様子を観察することで興味が深まり、自分が感じたことを保育士や友だちに伝え合いながら楽しむ姿があった。
- 釣った魚をその場で調理してもらうことで、普段苦手意識がある子も意欲的に食べていた。また、骨など中身も観察した。
- 体験したことを振り返る中で、釣りをごっこ遊びに取り入れたり、実際に見た生き物について調べてクイズを考えるなど、次の活動へと繋がっていった。

<活動中の子どもの姿・声、子ども同士や保育者との関わり>

魚以外にもアカハライモリ、カニ、クルマエビも釣れました。「お腹が赤いからその名前なんだね」「ハサミの大きさが左右で違う！」など、間近で見ることによって様々な発見もありました。



やり方を教えてもらい早速釣リスタート！大きな水槽にはアジ、ヒラメ、タイなどが泳いでいます。釣り糸を入れてしばらく待つと…ぐんっと竿が引っ張られ「わ～重い！」施設の方に手伝ってもらい、見事シマアジが釣れました！自分が釣った魚の重さを感じながら、嬉しそうに観察してた子どもたちでした。



「つるつるだね」「こっちはざらざらだ」実際に触らせてもらったことで、子ども同士で気付きなどを伝え合っていました。

自分たちで作った魚が調理されて目の前に出ると「おいしそう！」と目を輝かせていました。普段はあまり手が進まない子も嬉しそうに完食です！



体験したことで、保育園でもやりたい！と生き物や釣り堀りを作り、ごっこ遊びに発展。その中でクイズも考えました。さらにお母さん、お父さんにもやってもらいたいとお楽しみ会でも披露しました。



5、振り返り（振り返りによって得た保育士の気付き）

- 釣り体験から、写真や図鑑に載っている生き物を実際に見たり、触れたりする機会ができ、新たな気付きへと繋がっていた。
- 釣ったものをその場で食べることで食への意欲も高まり、生き物の骨や体がどうなっているのかにも関心を持っていた。
- 体験したことを振り返る中で、保育園でも釣りをやりたいと制作が始まり、ごっこ遊びへと発展していった。また、そこから釣りを楽しむだけでなく、様々な魚の色や形を調べて形にしたり、生態を調べてクイズを行うなど、活動が広がった。自分たちだけでなく、保護者にも面白さを共有したいとお楽しみ会での発表にも繋がり、今まで取り組んできたものを共有することができたのはよかった。